2024 年度 総合研究所特別研究員 研究活動報告

氏名	山口 瑞穂
研究テーマ	日本国内の宗教運動における終末論的救済観の研究
研究概要	「灯台社」の宗教運動を、教団代表者の明石順三のアドヴェンティスト的な運動と して捉え直すことを目的とし、文献・史料にもとづく調査研究をおこなう。

1. 研究活動の概要と研究成果

現在調査中の概要としては、灯台社のアドヴェンティズム的な運動は、世界の終末が近いという危機意識があったからこそ戦略的・献身的に展開された一方、宣教論(神学)という視点からいうと、ワッチタワー世界本部の植民地主義的な世界宣教の一翼でもあったこと、どちらの運動も社会的な福音ではなく布教活動のみによる救済を志向していたことなどがあげられる。未だ研究成果を公開するには至っていないが、技術や方法としての宣教、救済の一環としての宣教など、宣教の諸側面を分けて捉える視点と明石順三のアドヴェンティズムの関係について検討中である。

2. 学術論文 · 学会発表等

[論文等]

共 櫻井義秀・山口瑞穂・猪瀬優理・清水香基・中村大介「エホバの証人―宗教家族の困難」、担当「日本の教団成長の見取り図から」『宗教研究』98巻別冊、

pp. 44~45、日本宗教学会編 (2025 年 3 月、査読無)

〔発表〕

学会発表等

共 「テーマセッション:「宗教 2 世」問題の宗教社会学―社会・メディア・教団・家族・ジェンダー―」、担当「エホバの証人と「宗教 2 世」問題」第 32 回「宗教と社会」学会学術大会(2024 年 6 月 16 日、國學院大学)

共 「パネル:エホバの証人―宗教家族の困難」、担当「日本の教団成長の見取り 図から」第83回日本宗教学会学術大会(2024年9月14日、天理大学)

3. 今後の課題

2024年度は、戦後のエホバの証人をめぐる現代的な社会問題を考察する際の補足的な情報として、灯台社および明石順三について部分的に言及することに終始したが、今後は、明石の宣教における「戦略性」とワッチタワー世界本部における「戦略性」、宣教動機という点での両者の異同について、より中心的で具体的な研究をおこなうことが課題である。